

～アンケート調査から「地域包括ケアシステムの構築」に向けて～ NPO 法人高齢社会をよくする女性の会

NPO法人高齢社会をよくする女性の会（樋口恵子理事長）は、毎年1回、都道府県の各都市において全国大会を開催しておりますが、本年は9月20日「千葉県」での開催となりました。この大会において、現在、介護だけでなく医療においても重要課題となっております「地域包括ケアシステム」を見据え、『地域で安心して老いるために必要なケアに関するアンケート』と題したアンケート調査を実施いたしました。

本アンケート調査は、大会参加者及びその関係者約700名（成人男女）に対し、質問票配布による集合調査法という形式で行いました。

有効調査票数は522。回答者の【性別】構成は男性22.5%、女性77.5%。【年代別】では30代以下4.0%、40代2.7%、50代14.8%、60代37.4%、70代37.0%、80代以上4.4%と、60代70代で7割以上を占めました。【介護経験】については、約5割の人が介護経験ありという結果でした。

これらの人たちに、身体が弱ってきたのに、「家族から面倒を看てもらえない場合、誰に助けてほしいか」を日常生活に発生する項目ごとに尋ね、さらに「住民同士の助け合い活動」や「ボランティア活動」、「有償ボランティア活動」に対する考えを問い、最後に「地域包括ケアシステム」についての理解度の有無や関心について尋ねました。

これらの質問に対する回答について、集計結果を添付しておきますが、次のような特徴が浮かび上がってきました。

1. 「誰に助けて欲しいか」については、男女とも多くの項目で「専門職・専門業者」に集中しましたが、「万一の時に家族へ連絡してもらおう」場合には「近所の人」を選ぶ割合が高くなります。女性は「話し相手や困りごとの相談」には「友人」を選び、一方すべての項目にわたって「助けはもらえない」という答えが男性に多く見られました。また、60代・70代は「ボランティア」を選ぶ割合が相対的に多くなります。なお、介護経験が有る人も無い人も、一般的に専門職・専門業者に頼むことを望んでいるという結果でしたが、「日常的な家事（買い物、洗濯、掃除など）」について「友人」を選ぶ割合は経験有りの人の方が低くなっています。
2. 「住民同士の助け合い活動」や「ボランティア活動」については、男女ともに60代、70代が前向きであり、特に女性の積極性が目立ちました。なお、「ボランティア活動」については、60代70代の男女がボランティア活動を評価していますが、有償ボランティアの方が「気を遣わなくていい」との回答が全体で約半数を占めており、また、有償活動が「就労の機会拡大（13%）」や「地域経済の活性化につながる（8%）」という意見もありました。
3. 「地域包括ケアシステム」については、「よく知っており、理解している（17%）」「関心があり内容を知りたい（37%）」で半数。一方、「聞いたことがあるが内容は知らない（26%）」「ほとんど知らない（11%）」「初めて聞いた（9%）」で半数という結果でした。

上記の調査結果から、「地域包括ケアシステム」の普及の必要性、互助のあり方をどうするかなどの課題があることを痛感いたしました。

この調査が今後の「地域包括ケアシステム構築」に向けての一助になれば幸いです。

2014年11月19日

「地域で安心して老いるために必要なケア」に関するアンケート調査

「高齢社会をよくする女性の会」では地域で日常生活を営みながら安心して老いていくために必要なケアについて、市民が何を求めているのかを探るべく調査を行いたいと思います。皆様のご協力をお願いします。

◎ あなたご自身のことについてお尋ねします。当てはまるものに○を付けてください。

性別：①（ ）男性 ②（ ）女性

年代：①（ ）30歳代以下 ②（ ）40歳代 ③（ ）50歳代 ④（ ）60歳代
⑤（ ）70歳代 ⑥（ ）80歳代以上

家族介護の経験：①（ ）家族の介護をしている、あるいはしたことがある
②（ ）自分が家族から介護をされている、あるいはされたことがある
③（ ）家族の介護をしたことがない
④（ ）その他（ ）

問1 あなたは自分の体が弱ってきたのに家族から面倒を見てもらえない場合、以下の事柄を誰に助けてもらいたいですか。自分の考えに最も近いものをひとつだけ選んで番号に○を付けてください。

日用品・食糧の買い物…①近所の人 ②友人 ③ボランティア ④専門職・専門業者 ⑤助けてほしくない

室内の掃除・片付け…①近所の人 ②友人 ③ボランティア ④専門職・専門業者 ⑤助けてほしくない

洗濯・物干し・取入れ…①近所の人 ②友人 ③ボランティア ④専門職・専門業者 ⑤助けてほしくない

食事の支度・食器洗い…①近所の人 ②友人 ③ボランティア ④専門職・専門業者 ⑤助けてほしくない

日常のゴミ出し…①近所の人 ②友人 ③ボランティア ④専門職・専門業者 ⑤助けてほしくない

日常の話し相手…①近所の人 ②友人 ③ボランティア ④専門職・専門業者 ⑤助けてほしくない

病院への付き添い…①近所の人 ②友人 ③ボランティア ④専門職・専門業者 ⑤助けてほしくない

布団干し…①近所の人 ②友人 ③ボランティア ④専門職・専門業者 ⑤助けてほしくない

電球の取り換え…①近所の人 ②友人 ③ボランティア ④専門職・専門業者 ⑤助けてほしくない

庭の手入れ…①近所の人 ②友人 ③ボランティア ④専門職・専門業者 ⑤助けてほしくない

電化製品の修理…①近所の人 ②友人 ③ボランティア ④専門職・専門業者 ⑤助けてほしくない

困りごとの相談…①近所の人 ②友人 ③ボランティア ④専門職・専門業者 ⑤助けてほしくない

体調不良で助けを求める…①近所の人 ②友人 ③ボランティア ④専門職・専門業者 ⑤助けてほしくない

万一のときに家族へ連絡…①近所の人 ②友人 ③ボランティア ④専門職・専門業者 ⑤助けてほしくない

問2 あなたは近隣住民による助け合い活動について、どのように考えますか。最も近い考えをひとつだけ選んで（ ）に○を付けてください。

- ①（ ）日頃から積極的に参加したい
- ②（ ）必要な時に参加したい
- ③（ ）できるだけ参加したくない
- ④（ ）参加しない
- ⑤（ ）必要ない

問3 あなたはボランティア活動について、どのように考えますか。最も近い考えをひとつだけ選んで（ ）に○を付けてください。

- ①（ ）ボランティア活動をすることで自分も何かの役に立っているという充実感が得られる
- ②（ ）より多くの人がボランティア活動に参加することでボランティア社会を築いていける
- ③（ ）ボランティア活動はあくまで個々の自主参加であり、責任の所在等が不明瞭になりやすい
- ④（ ）明確な目的や強い意志がないとボランティア活動を継続していくことは難しい
- ⑤（ ）経済的な余裕がないとボランティア活動に積極的になれないのではないかと

問4 あなたは有償ボランティア活動について、どのように考えますか。最も近い考えをひとつだけ選んで（ ）に○を付けてください。

- ①（ ）利用する側にとって有償ボランティアの方が気を遣わなくてすむ
- ②（ ）有償ボランティア活動には責任性・継続性が期待できる
- ③（ ）有償ボランティア活動によって就労の機会拡大が期待できる
- ④（ ）有償ボランティア活動によって地域経済の活性化が期待できる
- ⑤（ ）ボランティアというからには、活動は無償で行うべきである

問5 厚生労働省は2025年を目途に、病気や要介護になっても個人の心身状況に応じた諸サービスが地域で切れ目なく提供されるような「地域包括ケアシステム」の構築が必要であると謳っています。

あなたの地域包括ケアシステムに関する考えに最も近いものをひとつだけ選んで（ ）に○を付けてください。

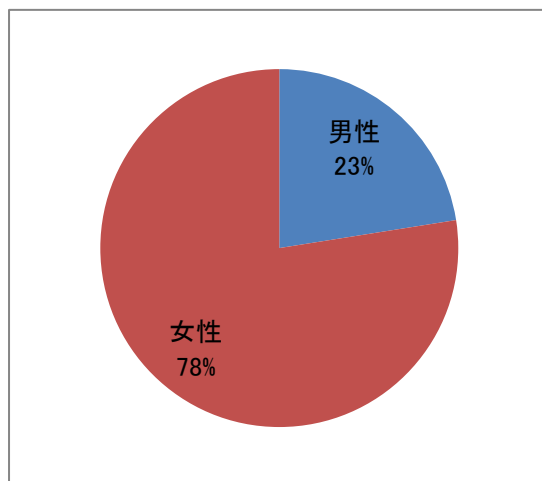
- ①（ ）「地域包括ケアシステム」についてよく知っており、詳しく理解している
- ②（ ）「地域包括ケアシステム」について関心があり、詳しく内容を知りたい
- ③（ ）「地域包括ケアシステム」について聞いたことはあるが、詳しい内容は知らない
- ④（ ）「地域包括ケアシステム」について、ほとんど知らない
- ⑤（ ）「地域包括ケアシステム」について、初めて知った

ご協力ありがとうございました（高齢社会をよくする女性の会）

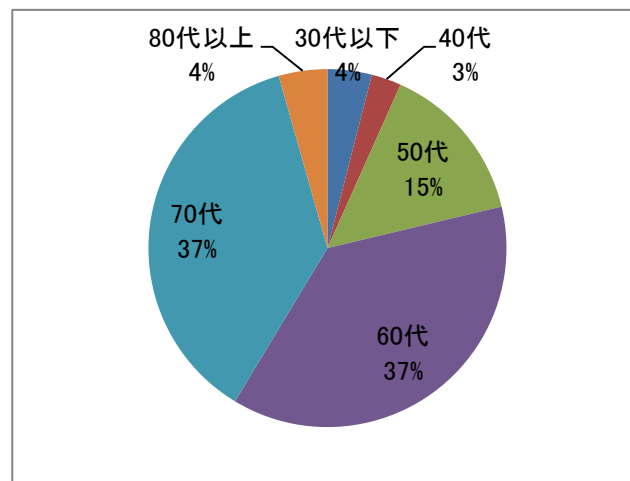
「地域で安心して老いるために必要なケア」に関するアンケート集計結果

有効調査票数	522	(N=522)
調査期間	平成 26 年 9 月 20 日～30 日	
調査対象	NPO 法人高齢社会をよくする女性の会「千葉大会」参加者および関係者（成人男女）	
調査方法	質問票配布による集合調査法	

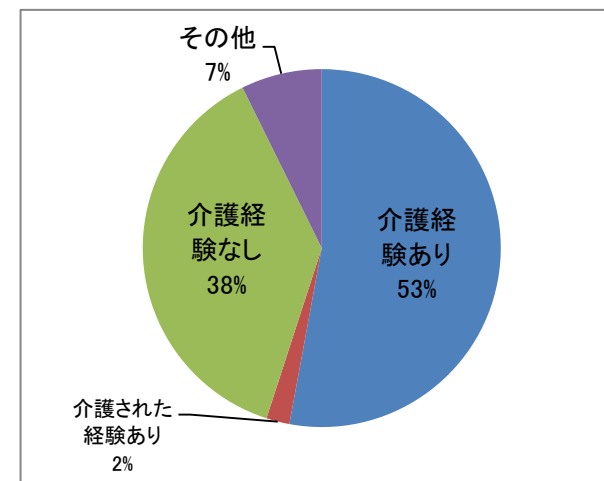
【性別】 男性 22.5% 女性 77.5%



【年代別】 30代以下 4.0% 40代 2.7% 50代 14.8%
60代 37.4% 70代 37.0% 80代以上 4.4%

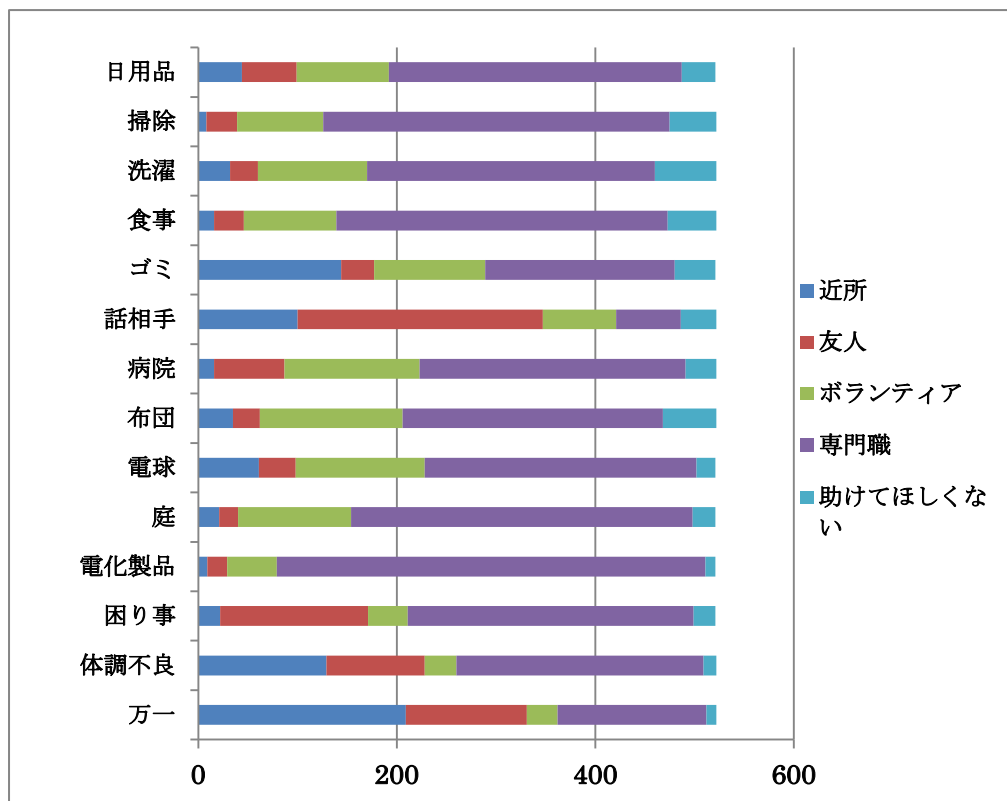


【介護経験】介護経験あり 52.9% 介護経験なし 37.7%
介護されたことあり 2.1% その他 7



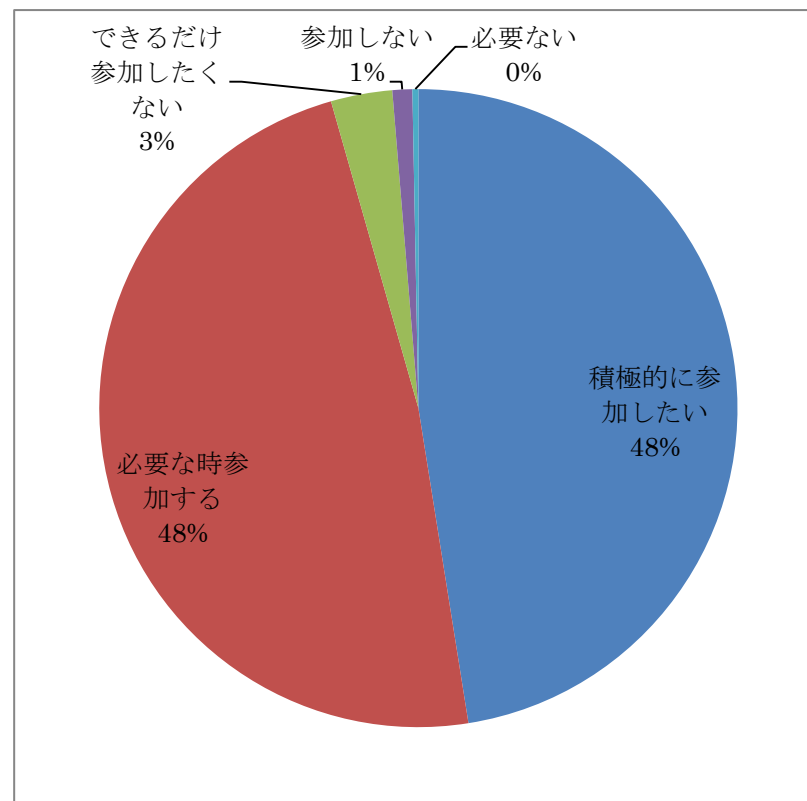
問1 家族から面倒を見てもらえない場合、誰に助けてもらいたいですか？

(N=522)



問2 近隣住民による助け合い活動について、どのように考えますか？

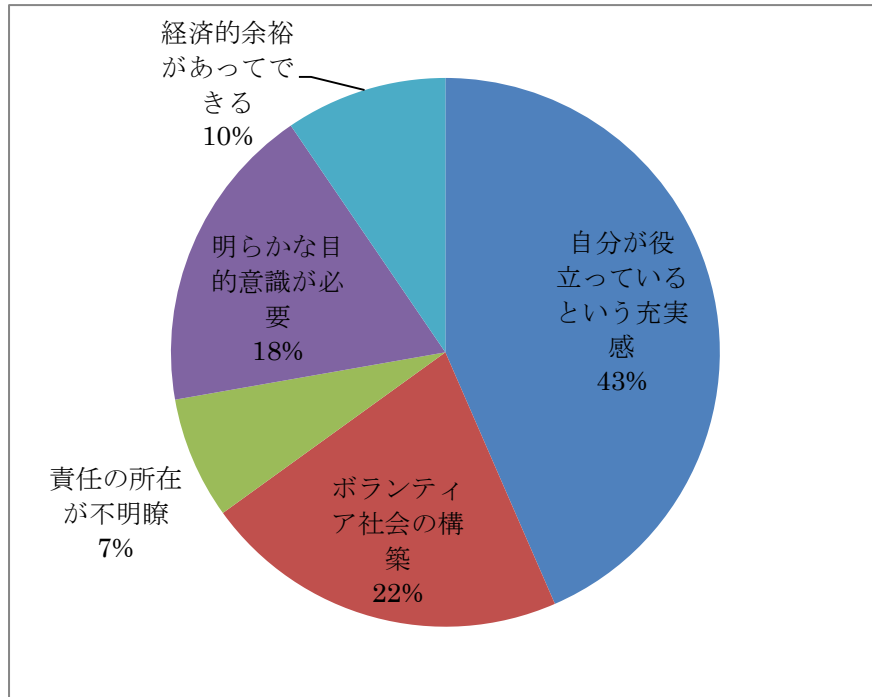
(N=522)



積極的に参加したい 47.3% 必要な時には参加する 47.9%
 できるだけ参加したくない 3.1% 参加しない 0.3% 必要ない 0.3%

問 3 ボランティア活動について、どのように考えますか？

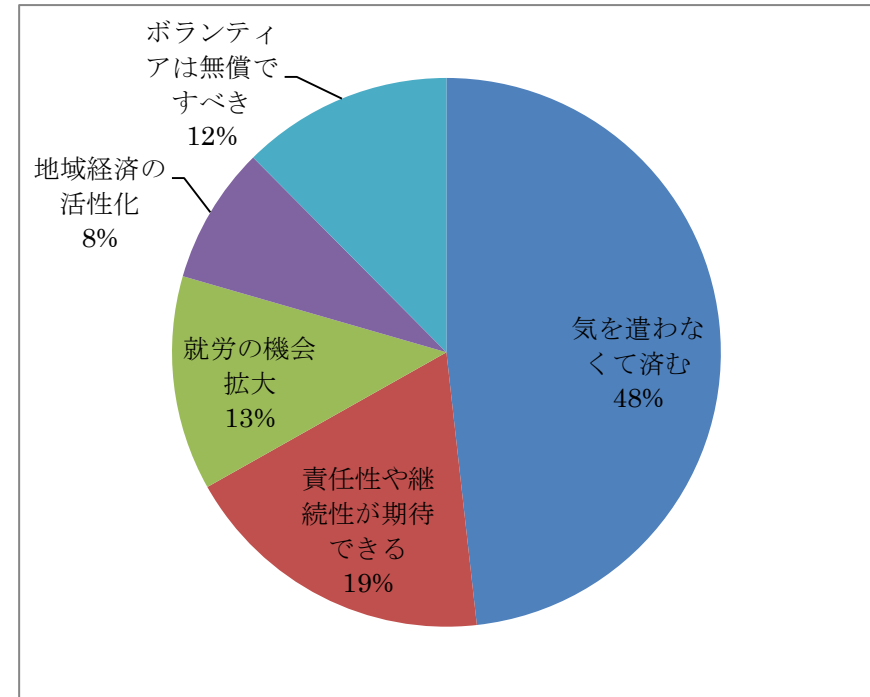
(N=522)



役に立っているという充実感 42.9% ボランティア社会の構築 21.3%
 責任の所在が不明瞭 7.1% 明確な目的・意志がないと継続できない 18.0%
 経済的余裕がないとできない 10.4%

問 4 ボランティア活動にお金を支払うこと (=有償ボランティア) について、どのように考えますか？

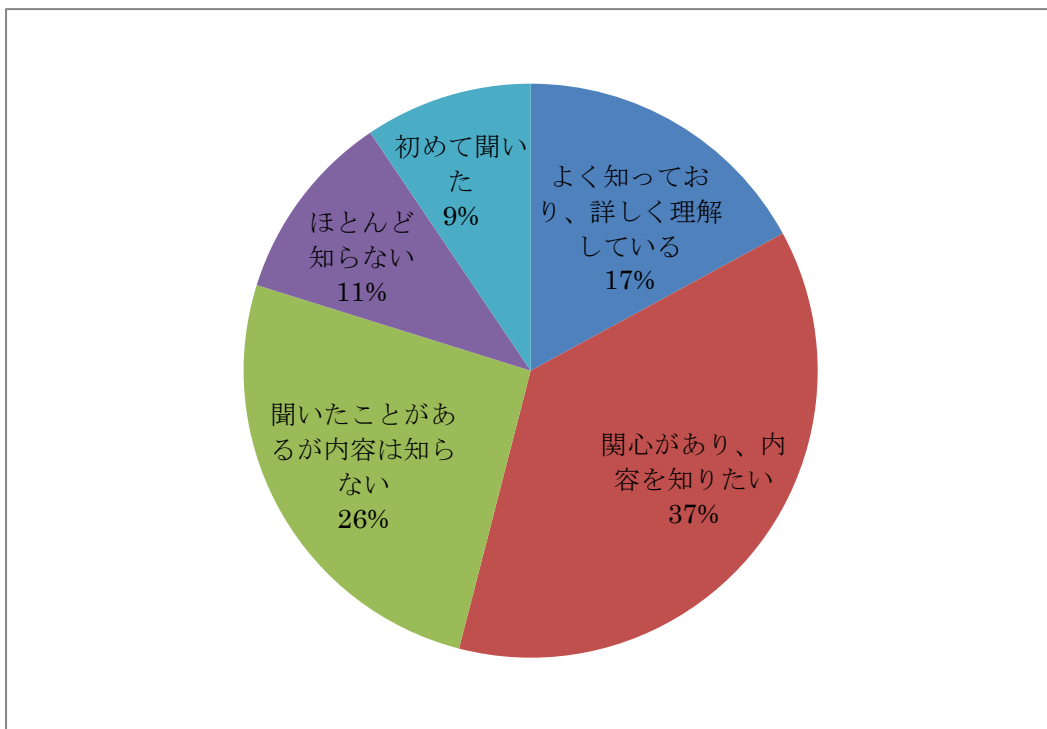
(N=522)



気を遣わなくて済む 47.7% 責任性・継続性が期待できる 18.4%
 就労の機会拡大 12.5% 地域経済の活性化 8.0%
 ボランティアは無償で行うべき 12.3%

問5 地域包括ケアシステムについて

(N=522)



よく知っており、詳しく理解している 17.0%

関心があり内容を知りたい 36.8%

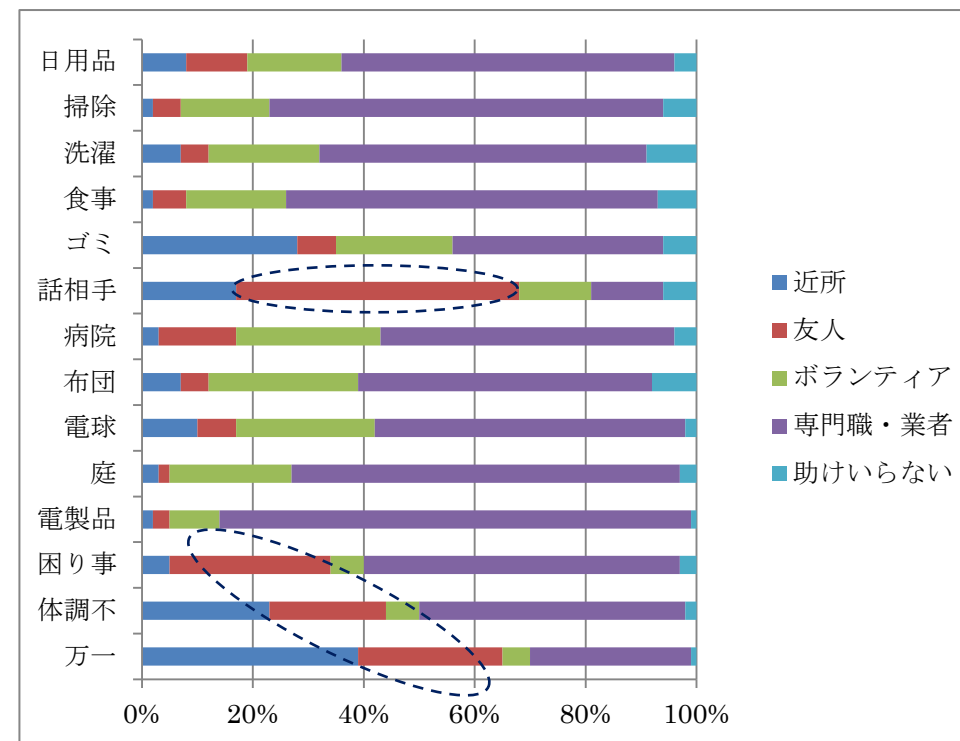
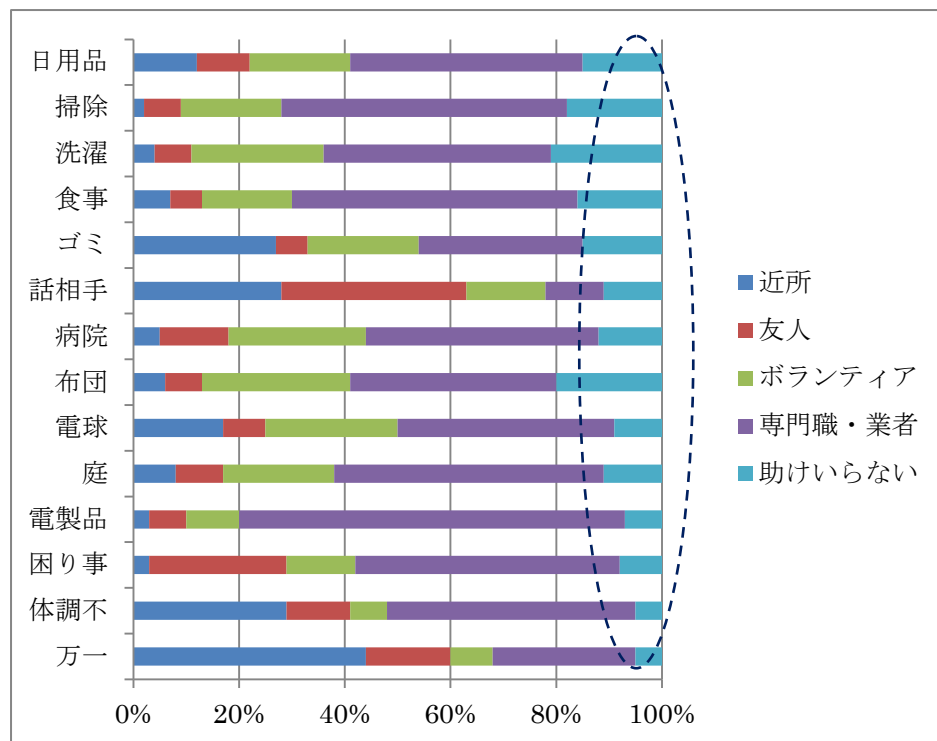
聞いたことはあるが詳しい内容を知らない 25.7% ほとんど知らない 10.7% 初めて聞いた 9.4% (小計 45.9%)

男性

(N=117)

女性

(N=403)

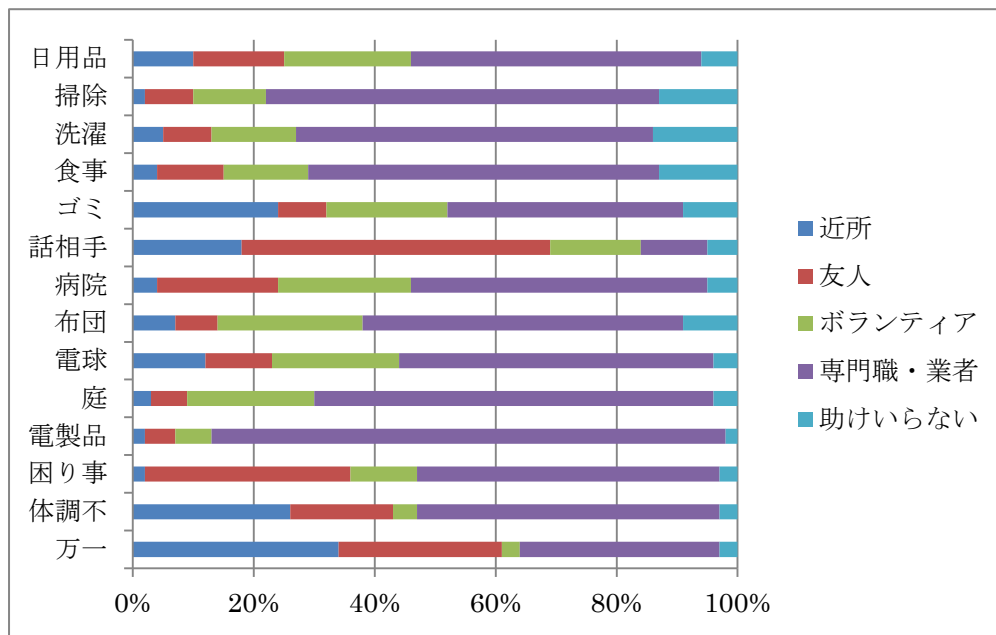


「あなたは自分の体が弱ってきたのに家族から面倒を見てもらえない場合、以下の14の事柄について誰に助けてもらいたいですか」という問いに対して【性別】

- ・「話し相手」および「万一の際に家族へ連絡」以外の項目については男女ともに「専門職・専門業者」に頼むとする人が多かった。
- ・性別ではっきりちがいが表れたのが「助けてほしくない」という解答の割合で、全ての項目が男性は女性の倍以上の割合で多かった。
- ・「話し相手」や「困りごとの相談」などは「友人」と答える人が男女ともに多くなっているが、「話し相手」については女性の方がその割合が大きい。
- ・「体調不良で助けを求める」や「万一の際に家族へ連絡してもらおう」といった緊急時には、男女ともに「近所の人」を頼る割合が大きくなっている。
- ・「日常的な家事(買い物、掃除、洗濯、食事づくりなど)」や「時々必要な助け(病院への付添い、布団干し、庭手入れなど)」について、男女ともにボランティアの力を期待している割合が一定数ある。

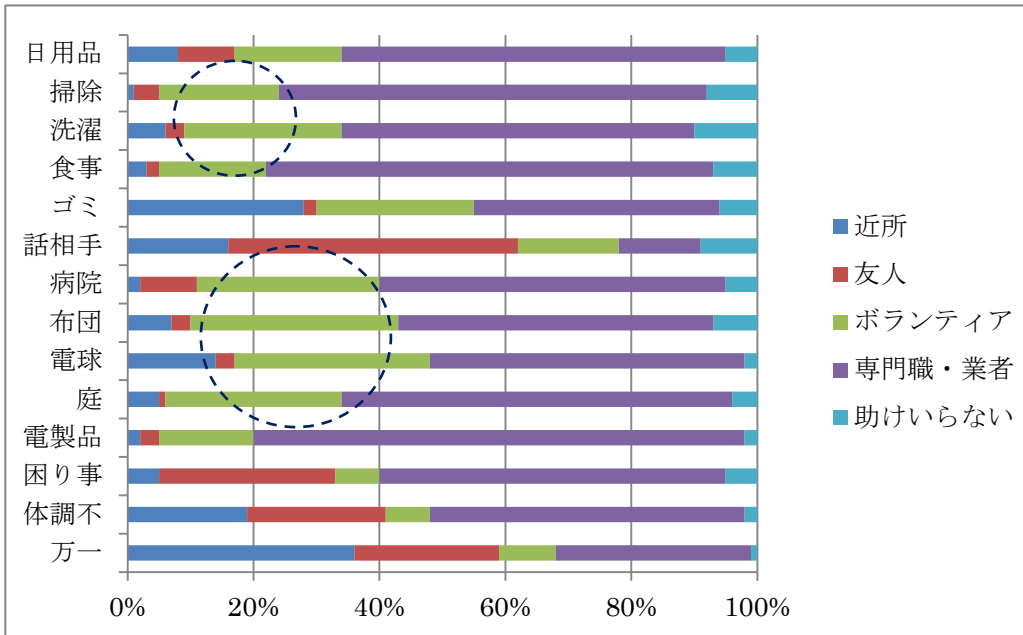
50代以下

(N=111)



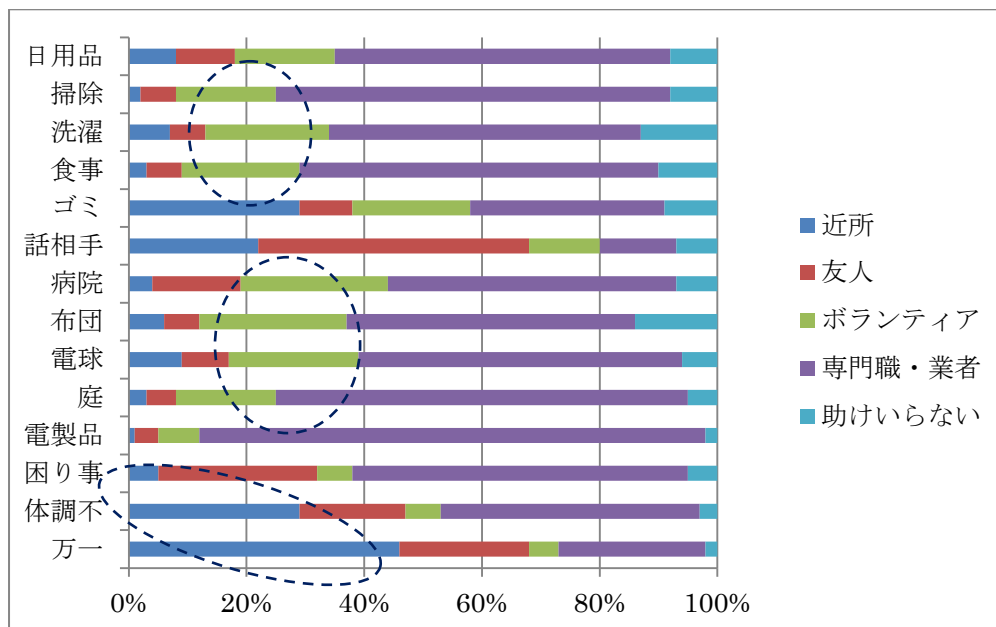
60代

(N=195)



70代以上

(N=216)

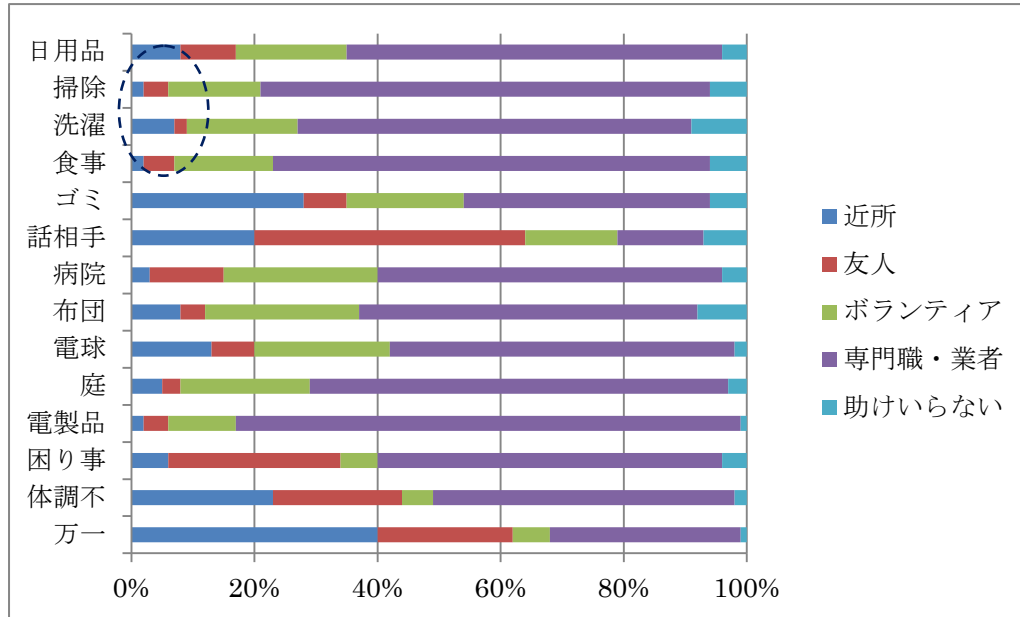


【年代別】

- ・全ての世代で「話し相手」には「友人」を選ぶ人の割合が最も大きい。
- ・50代以下に比べて、60代や70代は「ボランティア」に依頼する割合が大きくなっている。
- ・70代になると、「体調不良で助けを求める」や「万一の時に家族へ連絡」といった緊急時の事柄を「近所の人」に依頼する割合が増える。
- ・「話し相手」や「困りごと相談」については、全ての世代で「友人」が最も大きな割合を占めている。
- ・日常的な家事の中で、他の項目と比較して「ゴミ出し」については全ての世代で「近所の人」を選択する人が相対的に多くなっている。

介護の経験あり

(N=276)

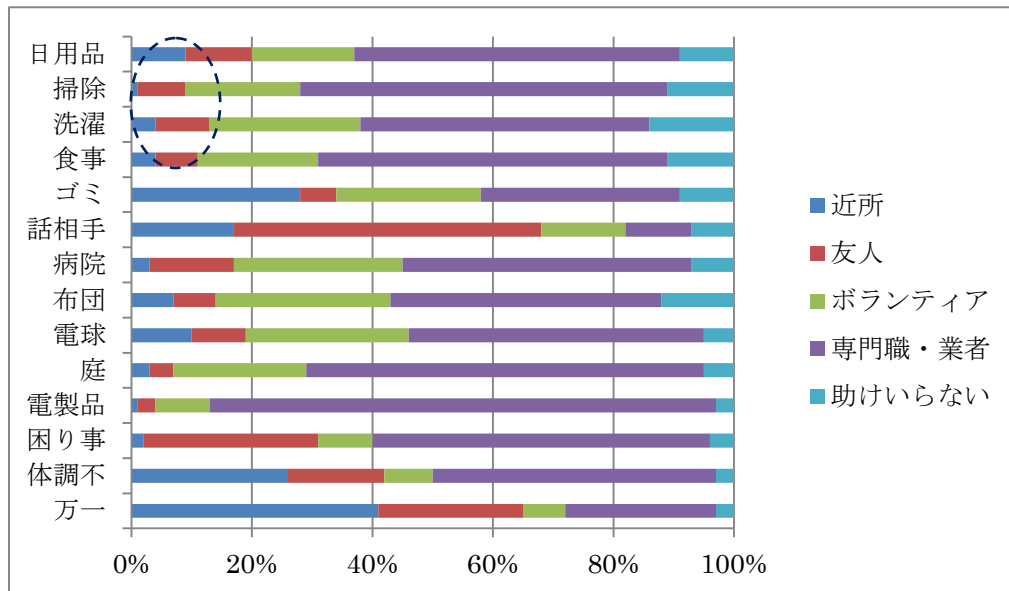


【介護経験の有無】

- ・介護経験有りの人は、介護経験無しの人比べて「日常的な家事(買い物、掃除、洗濯、食事づくりなど)」を「友人」に頼む割合が低い。
- ・介護経験有りの人は、介護経験無しの人比べて「日常的な家事」や「時々必要な助け(病院への付添い、布団干し、庭手入れなど)」について「ボランティア」に頼む割合が相対的に低い。
- ・介護経験無しの人の方が「助けてほしくない」と答える人の割合が多くなっている。
- ・介護経験有りの人の方が介護経験無しの人比べて「専門職・専門業者」に頼む割合が相対的に大きくなっている。

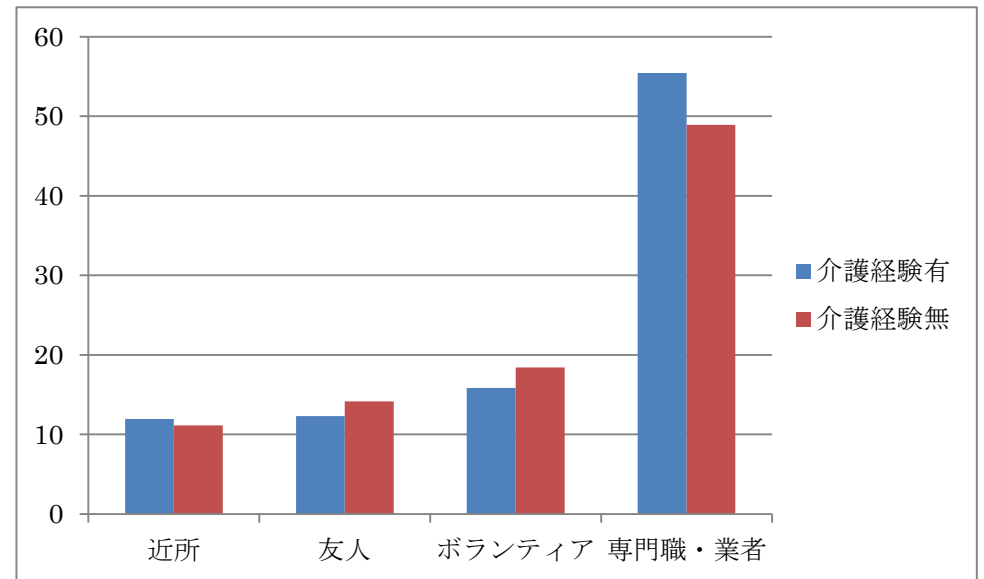
介護の経験なし

(N=197)

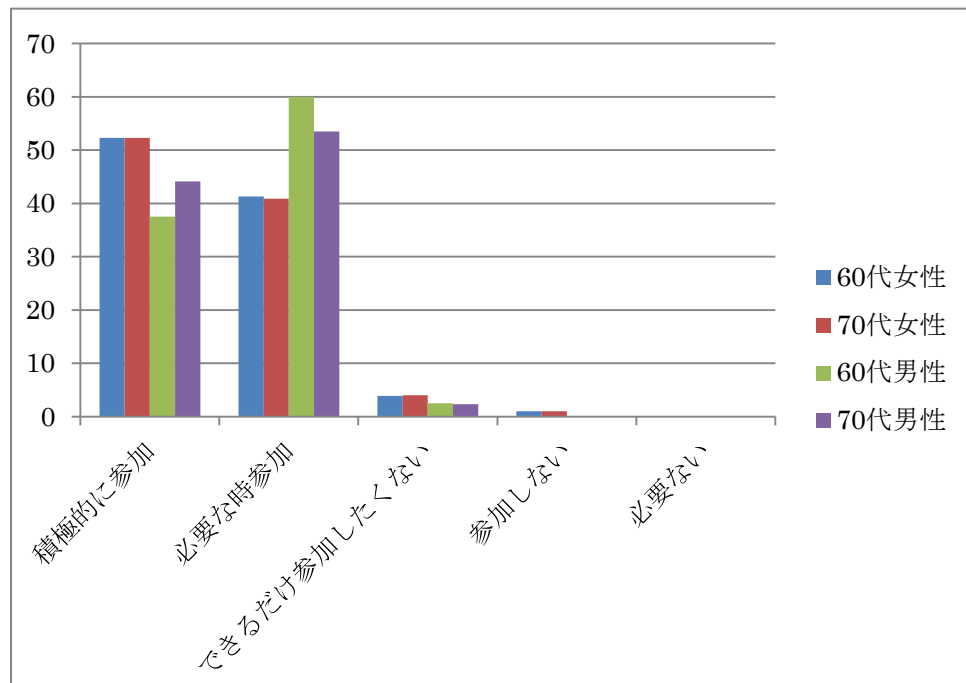


「誰に頼むか」について介護経験の有無による比較

(%)



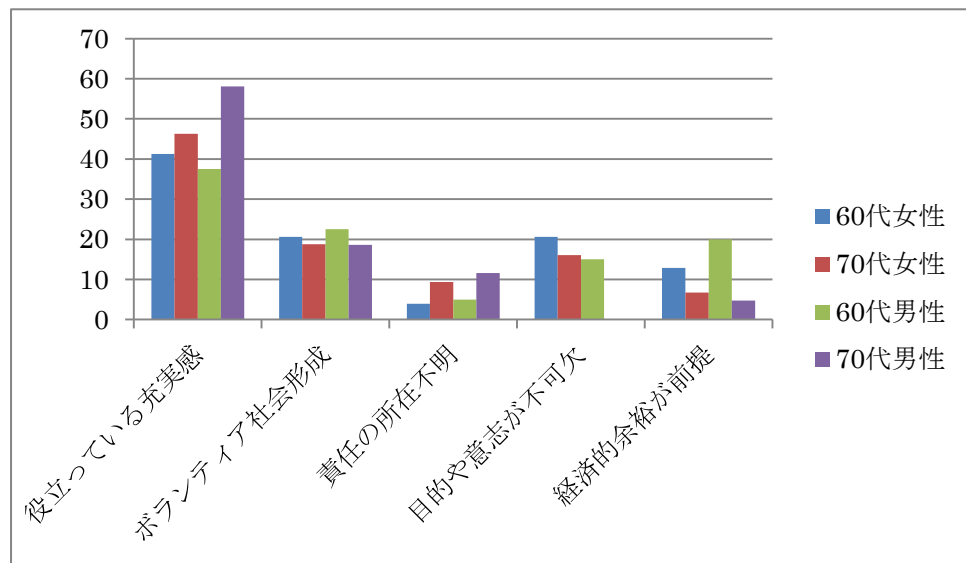
問2 あなたは近隣住民による助け合い活動について、どのように考えますか。



【近隣住民による助け合い活動について】

- ・地域の助け合いに関して、隣近所との共同による互助活動への姿勢は、60代・70代ともに女性の約半数強が積極的であり、「必要な時に参加」を上回っている。
- ・男性は、60代・70代ともに「必要な時に参加する」という姿勢が多くを占めており、とくに60代男性は「積極的に参加」したいという人が少ないことが分かる。
- ・60代・70代の男女ともに、「できるだけ参加したくない」という人はわずかである。

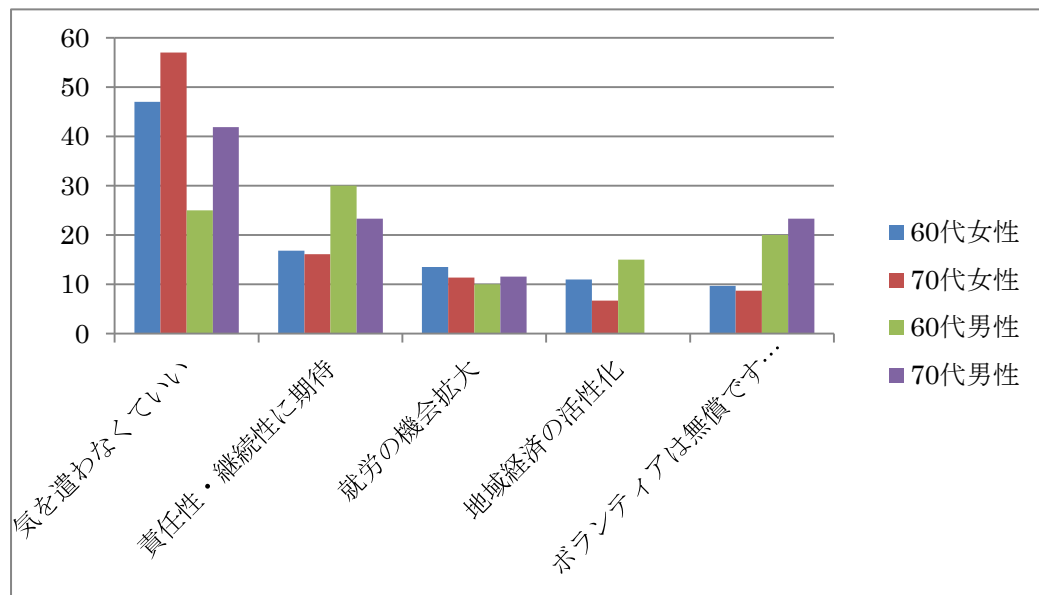
問3 あなたはボランティア活動について、どのように考えますか。



【ボランティア活動について】

- ・「自分が役立っているという充実感」をあげた人の割合が60代・70代の男女ともに多いが、とくに70代男性が高くなっている。
- ・「目的や意志が不可欠である」とする意見は、60代女性にやや多くなっている。
- ・「個々の自主参加のため、責任の所在が不明瞭になる」という意見が、70代の男女に相対的に多くなっている。
- ・「経済的な余裕がないとボランティア活動に積極的になれないのではないか」という意見は、60代の男女に相対的に多い。

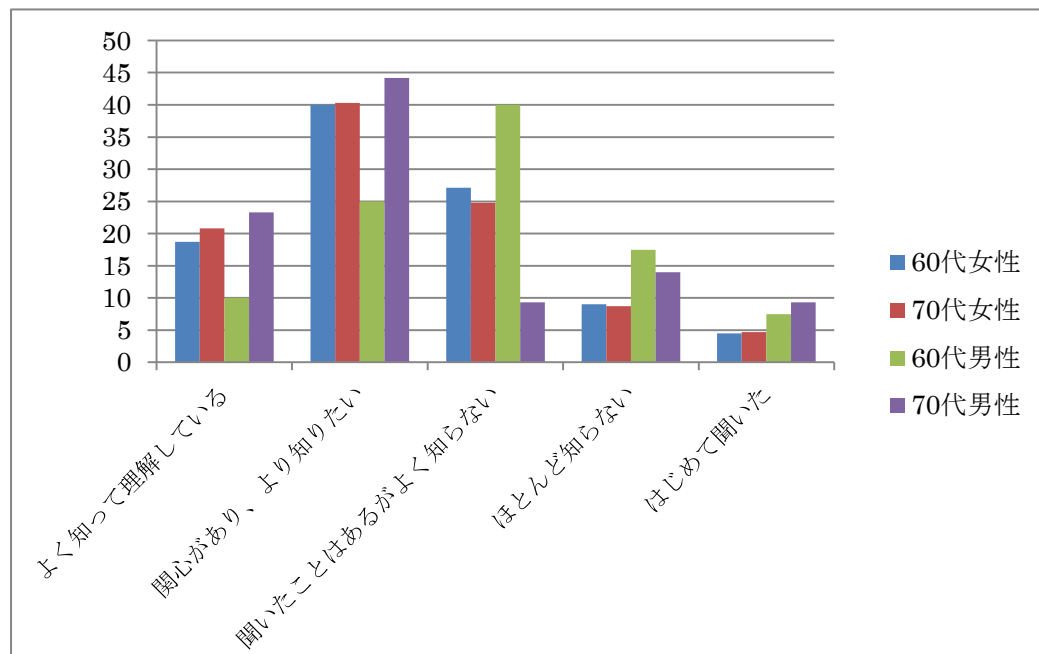
問4 あなたはボランティア活動にお金を支払うこと（＝有償ボランティア）について、どのように考えますか。



【ボランティア活動へお金を支払うことについて】

- ・「お金を支払うことで気を遣わずにものが頼める」という考えは、女性に強く表れており、とくに70代女性の割合が高い。一方で、60代男性は低くなっている。
- ・60代・70代の男性は「お金をもらうことで仕事に責任性や継続性が期待できる」と考える人が多く、特に60代男性の割合が高い。
- ・「就労の機会が拡大する」という意見の割合は、60代女性が相対的に高くなっている。
- ・「ボランティア活動は無償で行うべきである」という意見は、男性が女性に比べて倍以所の割合を示しており、70代男性が高くなっている。

問5 あなたの地域包括ケアシステムに関する考え。



【地域包括ケアシステムについて】

- ・「よく知っており、詳しく理解している」と答えた人は、全体で17.0%であるが、特に60代男性の割合が低くなっている。
- ・「関心があり、詳しい内容が知りたい」という人は、全体で36.8%にのぼるが70代男性の割合が高く、反対に60代男性は最も低くなっている。
- ・「聞いたことはあるが、よく知らない」という人は、全体で25.7%であるが、とくに60代男性の割合が高くなっている。
- ・「ほとんど知らない」と答えた人は、全体で10.7%であるが、70代・60代の男性の割合が高く、とくに60代男性が高くなっている。
- ・「はじめて聞いた」人は、全体で9.4%であるが、70代男性が相対的に高いという結果が出ている。